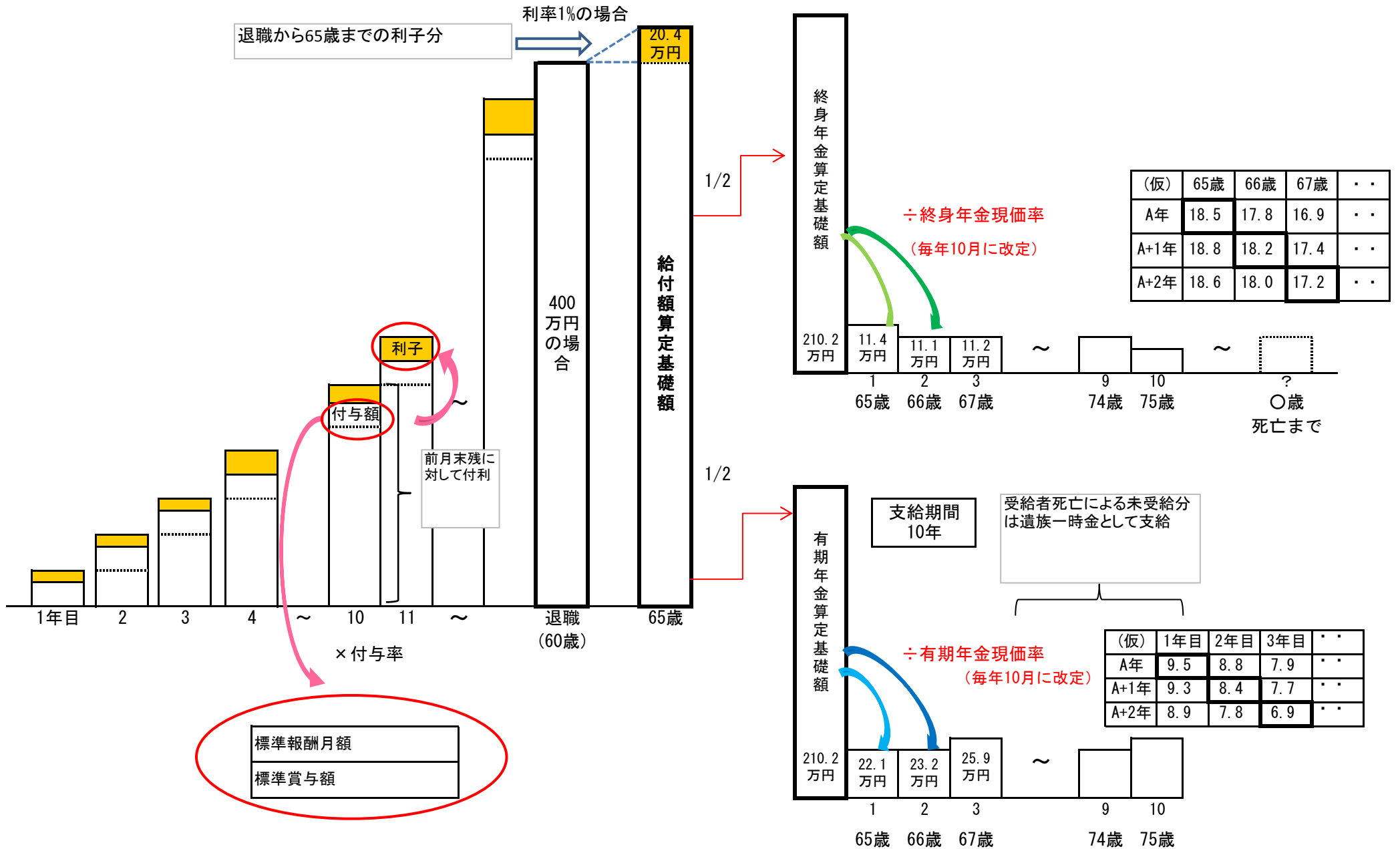


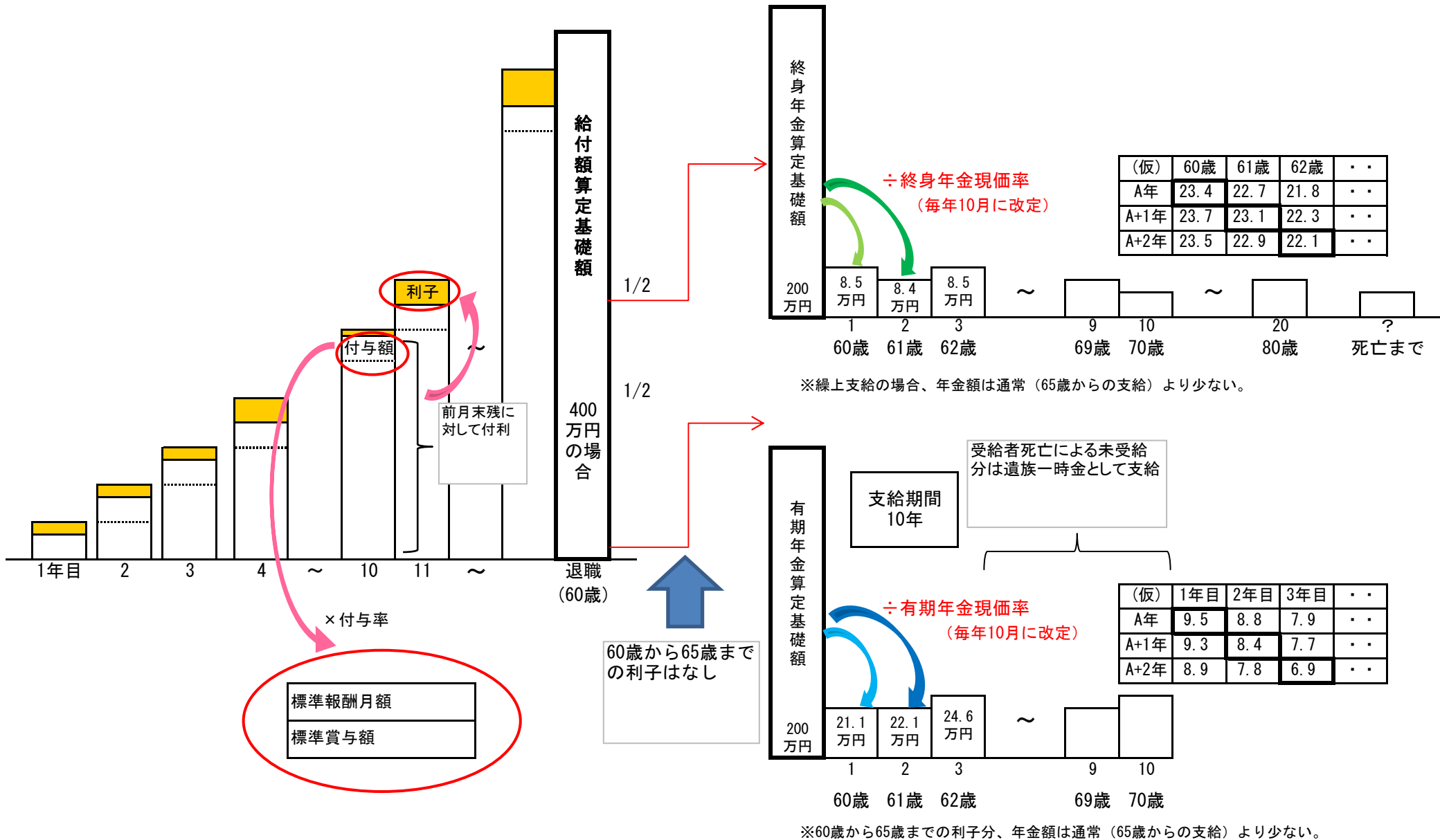
年金払い退職給付の仕組み(イメージ)

終身退職年金及び有期退職年金

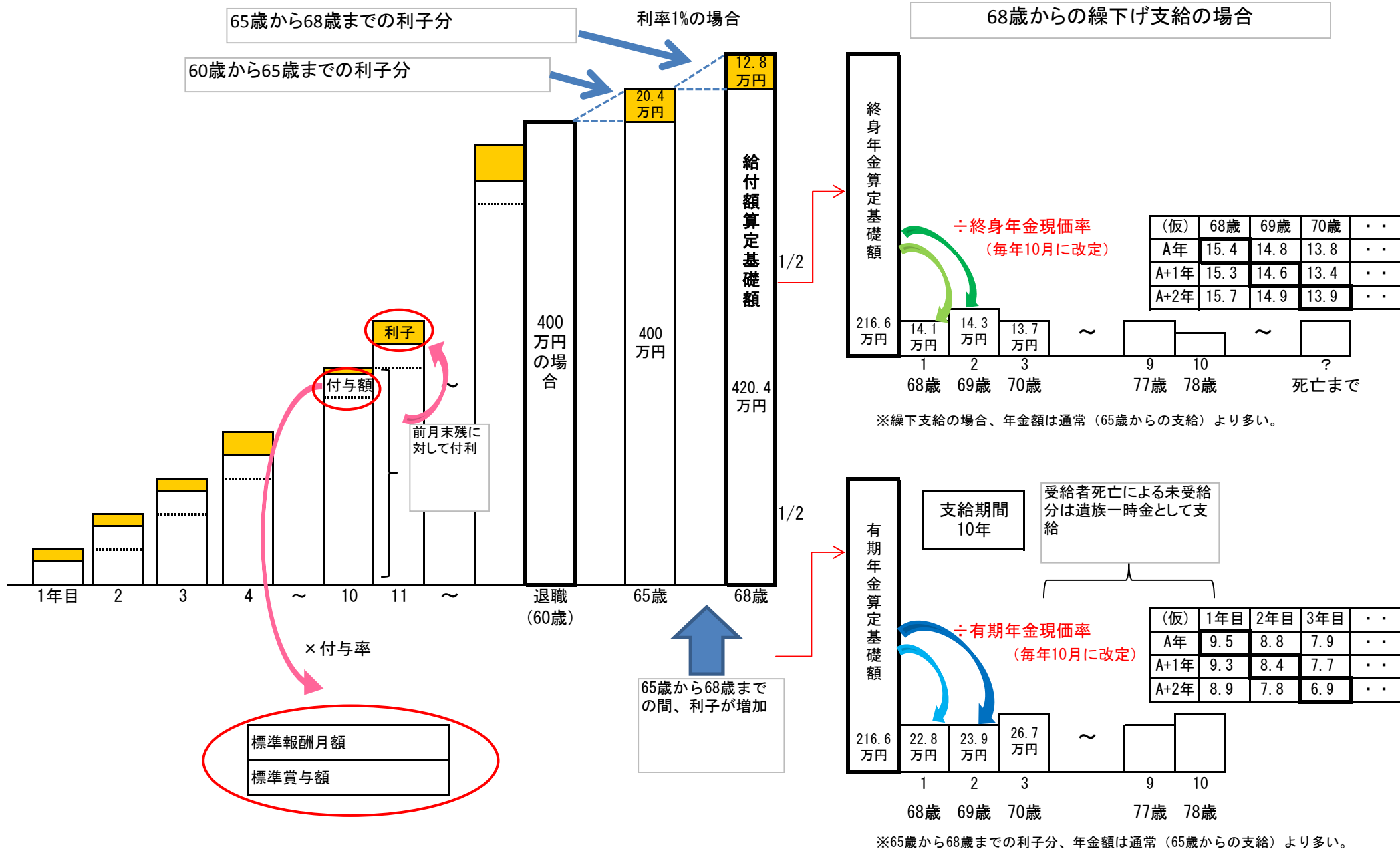


終身退職年金及び有期退職年金(繰上げ支給)

60歳からの繰上げ支給の場合



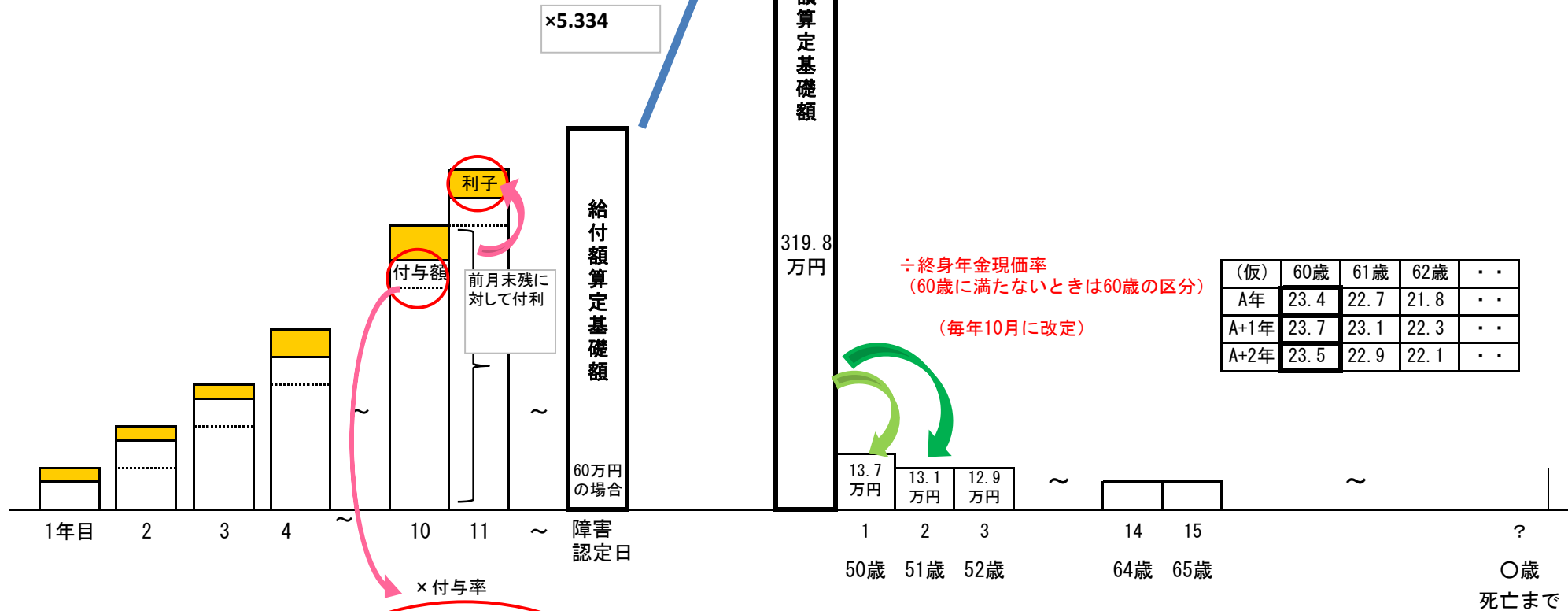
終身退職年金及び有期退職年金(繰下げ支給)



職務障害年金

(職務外障害の職域部分) = (職務上障害の職域部分)
 $\text{平均標準報酬額} \times 1.096 / 1000 \times 300 \times A$
 $= \text{平均標準報酬額} \times 12 \times 14.615 / 100$
 $A = 5.334$
 ※障害での職域部分について、組合員期間が300月みなしの場合、職務外と職務上では約5.334倍の水準差がある。(2級・3級の場合)

最低保障額
 障害等級1級 約415万円－2階部分(障害厚生年金)の額
 障害等級2級 約256万円－2階部分(障害厚生年金)の額
 障害等級3級 約232万円－2階部分(障害厚生年金)の額

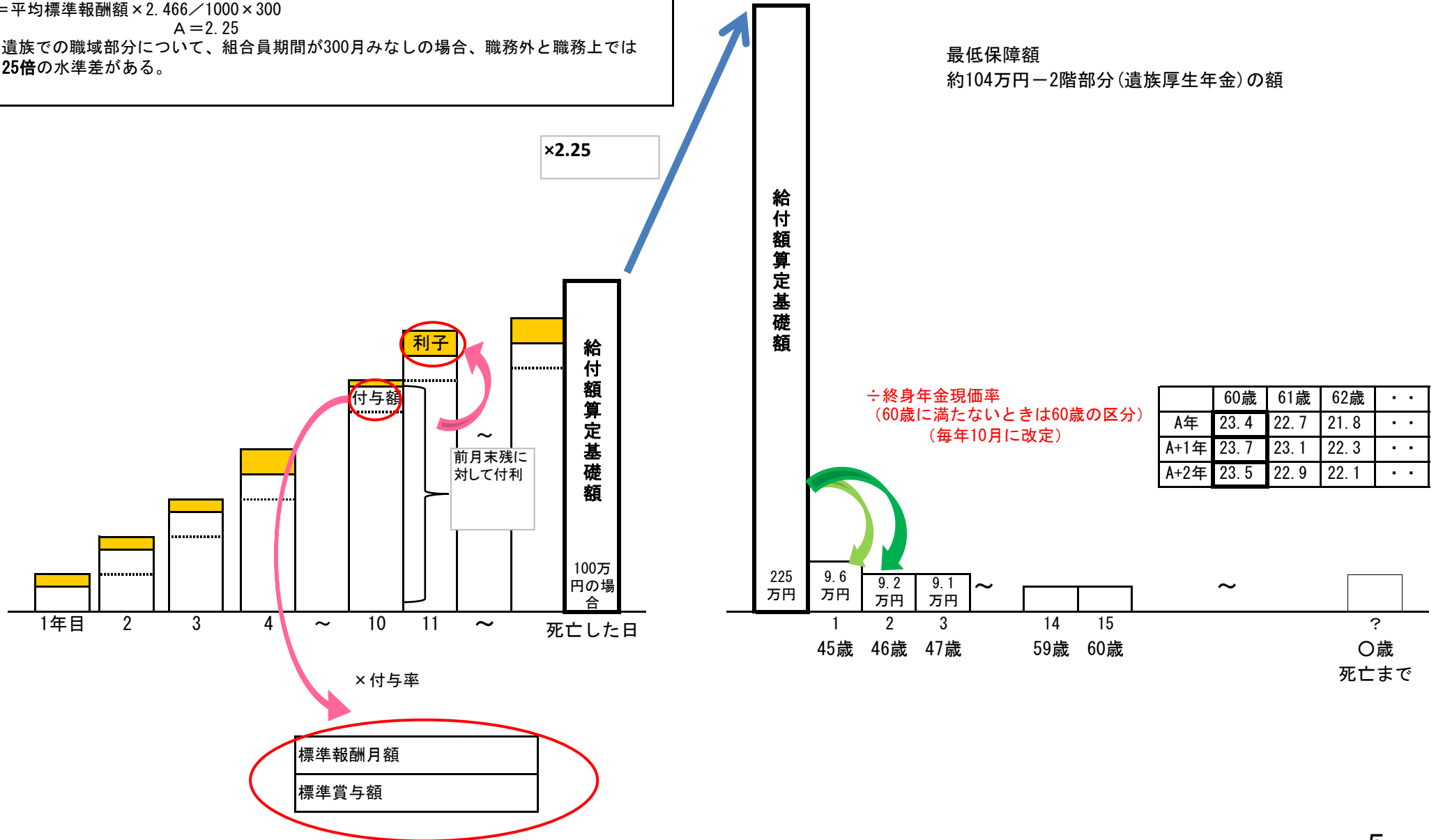


標準報酬月額
 標準賞与額

※障害等級の1級に該当するときは、2級の場合の年金額の150/100の額となる。

職務遺族年金

(職務外死亡の職域部分) = (職務上死亡の職域部分)
 $\text{平均標準報酬額} \times 1.096 / 1000 \times 300 \times A$
 $= \text{平均標準報酬額} \times 2.466 / 1000 \times 300$
 $A = 2.25$
 ※遺族での職域部分について、組合員期間が300月みなしの場合、職務外と職務上では
2.25倍の水準差がある。



終身退職年金

・A年の年金額

終身年金算定基礎額	÷	A年の終身年金現価率 (65歳の年齢区分)	=	A年の年金額
210.2万円	÷	18.5	=	11.3621万円

・A+1年の年金額

A年の年金額	×	A年の終身年金現価率 (66歳の年齢区分)	=	1年分を支払った残りの 終身年金算定基礎額
11.3621万円	×	17.8	=	202.2453万円
1年分を支払った残りの 終身年金算定基礎額	÷	A+1年目の終身年金現価率 (66歳の年齢区分)	=	A+1年目の年金額
202.2453万円	÷	18.2	=	11.1123万円

有期退職年金

・A年の年金額

有期年金算定基礎額	÷	A年の有期年金現価率 (1年目の区分)	=	A年の年金額
210.2万円	÷	9.5	=	22.1263万円

・A+1年の年金額

A年の年金額	×	A年の有期年金現価率 (2年目の区分)	=	1年分を支払った残りの 有期年金算定基礎額
22.1263万円	×	8.8	=	194.7116万円
1年分を支払った残りの 有期年金算定基礎額	÷	A+1年目の有期年金現価率 (2年目の年齢区分)	=	A+1年目の年金額
194.7116万円	÷	8.4	=	23.1799万円